

校長通信

東京都立戸山高等学校

校長 布施 洋一

高い目標を掲げて

今年も伝統の「戸山・新宿対抗戦」が、6月7日（木）に駒沢オリンピック公園内の各競技場を中心に行われました。駒沢公園内の野球場が改修工事中のため、前日の6日に東大球場で予定されていた野球部の試合が雨で中止になってしまったのは残念でしたが、7日は晴天に恵まれ、プレーをする選手たちと、それを応援する生徒や保護者が一体となった、熱い戦いが展開されました。結果は両校共に譲らず、14種目で7勝7敗の引き分けに終わり、63年間の対戦成績は戸山の31勝22敗10分となりました。

ところで、今年はソフトテニス部が男子ダブルス、陸上部が男子三段跳びで、3年生の選手が関東大会に出場しています。本校は目指す学校像にも「文部両道」を掲げていますが、戸山生はあくまで学習中心を前提に部活動に取り組んでいるので、活動時間は他校と比べても決して長くはありません。しかし、高い目標を持って、短時間でも効率的かつ質の高い活動を続けられれば、大きな成果を上げることも十分にできます。今回のソフトテニス部と陸上部の関東大会ダブル出場は、そのことを如実に物語るものであると思います。

もともと「戸山・新宿対抗戦」には部活動を最後まで頑張った3年生の引退試合という意味合いもありますが、5月から6月にかけて、各部活動ごとの公式戦も行われ、多くの3年生がこの時期部活動を引退して受験モードへの切り替えを図ります。ここでスムーズな切り替えができるかどうか大きな意味を持ちますが、部活動をやり切ったという充実感があれば、切り替えは必ずうまくいきます。毎年部活動を最後までやり切った生徒の多くが、受験でも良好な結果を残しています。部活動で培った精神力や体力、時間の上手な使い方等は、必ず学習に波及していきます。そのことを信じて、自分の目標に向かって全力で頑張ってもらいたいと思います。

そして、3年生は名実共に受験生となるわけですが、大学受験で一番大切なのは、最後まで高い目標を持ち続けることだと思います。目標は高ければ高いほど、それを達成するには様々な困難が伴います。大学受験においてもそれは然りで、いわゆる難関と言われる大学であればあるほど、いくら勉強しても「合格間違いなし」などという結果は簡単には出てきません。まして現役生はまだ高校の学習を全て終えているわけではないので、現役生が浪人生と対等に渡り合えるようになるのは早くても秋の終わり以降です。しかし、勉強してもすぐに結果に結びつかないという現実、受験生にとってはつらいことです。そのつらさから逃れるために、目標を下げるという誘惑にかられることとなりますが、一度目標を下げてしまうと、あとは際限なく目標を下げ続けていくことしかできません。人間は機械ではありませんから、強いモチベーションのないところで、つらい努力を長期間続けるなどということは到底できないのです。

3年生がこれから挑もうとしている壁は、簡単には乗り越えることのできない高い壁です。しかし、戸山生の力をもってすれば、乗り越えることが不可能な壁では決してありません。戸山生は恵まれた環境の中で、学習はもとより部活動や学校行事、その他様々な活動の中で、多くのことを経験し、これから生きていくうえで必要なことをたくさん学んできています。大切なのは、自分が戸山生としてやってきたことを信じて、最後の最後まで高い目標を持つ続けることです。最後まで諦めず努力していれば、結果は自ずと付いてくるものです。

名実ともに受験生となった3年生の健闘を、心から期待しています。